

市長公約の進捗状況表

※進捗状況を星の数で評価 ☆～☆☆☆

令和4年3月末現在

大項目	項目	進捗状況	取組状況(今後の予定含む)
1 都市基盤の再整備で地域社会の構築	(1) 新見・大佐・神郷・哲多・哲西の拠点性を強化し、便利な地域社会の構築	☆☆	地域運営組織が令和3年度に新たに5地域で設立され11組織となった。引き続き、地域運営組織の設立を支援していく。 地域運営組織が一定数設立された後、総合計画にある8エリアごとの計画を策定のうえ、より便利な地域社会を目指す。
	(2) 旧市街地を活性化しにぎわい再生	☆☆	新見駅周辺のまちづくりでは、令和3年度にまちづくりの基本方針を策定。引き続き、令和4年度早期に基本構想を策定し、西エリアの整備を機に事業の具体化を進める。
	(3) 県道新見日南線の改良と金谷地区区画整理事業早期着手	☆☆	県道新見日南線の市街地部分の改良について、期成会会長として、国や県に対し積極的に要望活動を行った。 金谷地区については、都市計画マスタープランで新市街地エリアとして位置づけ、実態調査や現地測量、アンケート調査等を実施した。 令和3年度に策定した立地適正化計画も踏まえ、今後、地質調査、区画整理設計、実施計画書等の作成、想定換地設計を経て、都市計画決定の後、R6年度初頭の事業認可を目指し取り組む。
	(4) 新見駅のバリアフリー化と美術館を含めた新見駅周辺整備の見直し	☆☆	「新見駅周辺まちづくり検討委員会」において、新見駅のバリアフリー化及び美術館を活かしたまちづくりの検討を進めており、令和3年度にまちづくりの基本方針を策定した。中長期を見据えた基本構想を令和4年度早期に策定する予定としており、今後これらを踏まえた新見駅の周辺整備を進める。
2 稼げる地場産業の振興	(1) 第一次産業の所得増加に向けた積極的支援、競争に勝てる体質への転換促進	☆☆	農業においては、産地の競争力強化のため、担い手の育成、特に新規就農者の確保に取り組んでおり、令和3年度には農地の利用集積に対する奨励金制度の創設や農業実務研修経費の交付制度を創設した。 令和4年度には、豊永営農団地の拡張や資材費の助成などにより新規就農者の確保に努める。 林業においては、令和3年度に中古の高性能林業機械などの購入支援制度を創設した。引き続き、森林施業などの効率化、生産性向上のさらなる推進を図る。
	(2) 農協と連携し付加価値の高い製品の開発と販路の開拓	☆☆	現在、りんどうの加工品開発事業とラズベリーの試験栽培を行っている。最終年となる令和4年度の実証結果を踏まえ検証を行う。 今後も、新たな特産品となりうる作物及び加工品を開発するため、引き続き調査研究していく。
	(3) 基幹産業である既存の商工業や鉱業の雇用の確保と支援	☆☆	これまで取り組んできたIJUターン就職希望者と求人企業とのマッチングが増えており(平成29年度:2件→令和3年度速報値:15件)、雇用確保の支援に繋がっている。今後も、引き続き地道な情報収集と効果的な情報発信を実施する。 資格取得支援事業による雇用定着の促進が図られており、今後は補助対象の拡大など、事業を拡充する予定。 令和4年度にICOCAを活用した地域活性化プロジェクト事業を実施し、市内の消費拡大を促進するとともに、令和3年度に作成した産業連関表を活用し、市内経済の活性化や商工業者の支援に繋げる。
	(4) 地元の就業者(農業含む)への支援策実施による労働力確保(新規就職奨励金新設・市外からの転入者へも支援継続等)	☆☆	新規学卒者の定住促進を図るため、令和3年度に定住支援金制度を創設。引き続き、地域の担い手となる若年者の定住促進と、地域の活性化を図る。 これまで取り組んできたIJUターン就職支援事業は相談件数、就職件数ともに増加している。今後も引き続き取り組むとともに、WEB版市内企業ガイドの作成など市内就職の促進を図る。 就農については、国が令和4年度から新たに実施する新規就農者育成総合対策における親元就農者への支援事業の創設を受け、本市の支援策の検討を行う。

市長公約の進捗状況表

※進捗状況を星の数で評価 ☆～☆☆☆

令和4年3月末現在

大項目	項目	進捗状況	取組状況(今後の予定含む)
稼げ興る地場産業	(5) 観光資源の掘り起こしによる交流人口増加支援	☆☆☆	令和3年度は観光パンフレットの更新を行ったほか、新見市観光事業協議会を設置。本協議会では、市内を6エリアに分け、各エリア毎に部会を開催し、それぞれの地域における観光振興について協議を実施した。 今後は、これらの意見をもとに、アグリツーリズムなど新たな地域資源を活用した観光振興に取り組む。 また、(一社)新見市観光協会に専門的な知識やノウハウを有する民間企業の社員「観光戦略マネージャー」を配置し、観光協会の体制強化を図るとともに、市内外の観光関連事業者等との連携強化や新たな観光商品の開発等を行い、観光資源を生かした交流人口の増加を目指す。
有事に危懼管理の徹底	(1) 新型コロナウイルス感染症対策管理の徹底 希望者全員のPCR検査の助成	☆☆☆	令和3年度は、多くの市民や医療従事者の皆さんの協力により、県下トップのワクチン接種率を達成。 令和4年度も、新型コロナウイルス感染症の収束に向け、追加接種を着実に進める。また、検査への助成を継続して行うとともに、検査費用の負担を軽減するため、申請回数の上限を年度内2回から4回に変更する。
	(2-1) 防災減災計画による万全の体制 ※新見市都市計画区域 市街地雨水排水計画の早期実現	☆☆☆	令和3年度は新見地区、高尾地区で浸水シミュレーションを実施。この結果に基づき、令和4年度は雨水詳細設計を実施する。 近年の豪雨災害で被害のあった風木谷川や太田谷川については、令和3年度に河床撤去、管理道の工事や設計委託業務を実施。今後は河川拡張工事等の防災対策を実施する。
	(2-2) 防災減災計画による万全の体制 ※山地災害防止のための治山安定事業の緊急実施	☆☆☆	令和3年度は緊急性の高い菅生、高尾2箇所、哲多の4箇所の事業を実施した。 今後の山地災害防止に向けて、必要な事業について県と調整を行っていく。
健やかで安心な医療・福祉体制	(1) 出産祝い金の増額や子育て支援の充実で若い世代の負担を軽減	☆☆☆	令和3年度から、出生祝金を1人当たり10万円に増額。(以前は出生数に応じて1万円～10万円) 引き続き、子育て支援の充実に努めていく。
	(2) 保育所と地域をつなぐ幼老共同複合構想の実現	☆☆☆	新たに整備する哲多認定こども園では、地域住民と交流が活発にできるよう遊戯室のスペースを広く設ける設計としており、令和4年度の完成を予定している。 他の地域においても、引き続き地域の状況を踏まえた幼老の交流機会の確保に努めていく。
	(3) 社会的弱者(障がい者・高齢者など)が安心して暮らせる体制の構築	☆☆☆	地域に密着した情報共有、福祉課題解決の場として小地域ケア会議を日常生活圏域ごとに開催している。令和3年度は新たに3地区が増え、34地区となった。買い物や移動支援等、その地域ごとの課題について住民と行政、社会福祉協議会等が協議し、課題解決に向けた取組を行っている。 令和4年度から、新たに正職員として精神保健福祉士を採用するほか、災害時に支援が必要な人に対する一人ひとりの状況に合わせた個別避難計画の作成に着手する。
	(4) 通院や買い物の移動に困らない交通ネットワークの整備	☆☆☆	令和3年度は、本市の交通体系の再構築に向け、交通ニーズ調査を実施し、新たな交通体系として哲西地区で予約型乗合タクシーの実証運行を行った。 令和4年度は、調査結果を踏まえ、本市の目指すべき公共交通体系の指標を示す公共交通計画を策定するとともに、予約型乗合タクシーの拡大を図るための地域選定などにも着手する。

市長公約の進捗状況表

※進捗状況を星の数で評価 ☆～☆☆☆

令和4年3月末現在

大項目	項目	進捗状況	取組状況(今後の予定含む)
4 健やかで安心な医療・福祉体制	(5) 地域医療と救急医療体制の充実(県南の総合病院等と協定を結び安心できる医療体制の確保)	☆☆☆	<p>地域医療については、令和3年度に引き続き、看護学生奨学支援金やドクターネットワーク事業、岡山大学との協定に基づく寄付講座等により医療従事者を確保し、公設診療所を継続的に運営した。</p> <p>岡山大学との協定については、令和4年度に期限を迎えるが、継続に向けて調整していく。</p> <p>看護学生奨学支援金は、令和4年度に当初の目標人数を達成する見込み。</p> <p>救急医療体制の充実については、令和3年度に倉敷中央病院の協力により、ドクターカーの試行的運用を開始した。現在、重症外傷が対象となっているが、今後、将来的に対象の拡大や、全面的な夜間運行が実現するよう検討していく。</p>
	(6) 高齢者世帯への生活支援	☆☆	「第8期新見市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」に基づき、独居高齢者戸別訪問、緊急通報サービス、高齢者等住宅改造助成、養護老人ホームへの措置など各種サービスを提供した。
	(7) 生涯暮らし続けられる体制づくり(介護担い手の確保)	☆☆	<p>令和3年度は、介護学生奨学支援金給付事業により2人に奨学金を給付した。</p> <p>今後、制度のさらなる周知や申請条件の見直しを行うほか、介護福祉士を目指す学生を増やす対策、復職者の掘り起こしや離職者を減らす対策の検討を行い介護人材の確保に取り組む。</p>
5 幼児期から大学までの一貫した教育体制の確立	(1) ICT教育の推進 オンライン指導や遠隔授業の環境整備(家庭と学校を繋ぐ)	☆☆☆	<p>iPadを活用したオンライン学習を取り入れており、家庭でのオンライン学習を可能とするため、モバイルルーターを整備し、コロナ禍で学級閉鎖となった際、オンラインでの授業を行った。</p> <p>令和3年度に全小学校の3・4年生教室に電子黒板を整備した。(全中学校全クラス及び全小学校の5・6年生教室は整備済)</p>
	(2) 新見高校の存続の取り組み 通学交通費への半額助成支援	☆☆☆	令和3年度に市内高校に通学する生徒の定期券購入費用支援制度を創設。引き続き市内高校の魅力化を図る。
	(3-1) 給食の提供 新学校給食センターの新設に伴い高校への給食提供	☆☆	現時点では、給食センターの調理能力と、児童、生徒数の関係から、早期の実施は困難と判断している。
	(3-2) 給食の提供 将来的には一人暮らし老人・高齢者世帯への給食サポート体制を確立	☆☆	新見市社会福祉協議会の友愛訪問活動や、地域団体主体での弁当配布の取組内容を踏まえ、学校給食センターの調理能力と今後の児童、生徒数、学校数の推移を勘案して研究していく。
	(4) 新見公立大学と共生する街づくり推進「学生を応援するまちづくり条例」を制定	☆☆☆	<p>学生の住居と活動場所を確保するため、令和3年度に新見駅西エリアの居住棟を整備した。</p> <p>新見公立大学とは平成30年4月に連携協定を締結しているところであり、条例の制定にかかわらず各種事業を推進していく。</p>
6 少人口策	(1) ※再掲 新見高校の存続の取り組み 通学交通費への半額助成支援	☆☆☆	令和3年度に市内高校に通学する生徒の定期券購入費用支援制度を創設。引き続き市内高校の魅力化を図る。

市長公約の進捗状況表

※進捗状況を星の数で評価 ☆～☆☆☆

令和4年3月末現在

大項目	項目	進捗状況	取組状況(今後の予定含む)
6 人口減少対策	(2) ※再掲 地元の就業者(農業含む)への支援策実施による労働力確保(新規就職奨励金新設・市外からの転入者へも支援継続等)	☆☆☆	新規学卒者の定住促進を図るため、令和3年度に定住支援金制度を創設。引き続き、地域の担い手となる若年者の定住促進と、地域の活性化を図る。 これまで取り組んできたIJUターン就職支援事業は相談件数、就職件数ともに増加している。今後も引き続き取り組むとともに、WEB版市内企業ガイドの作成など市内就職の促進を図る。 就農については、国が令和4年度から新たに実施する新規就農者育成総合対策における親元就農者への支援事業の創設を受け、本市の支援策の検討を行う。
	(3) ※再掲 出産祝い金の増額や子育て支援の充実で若い世代の負担を軽減	☆☆	令和3年度から、出生祝金を1人当たり10万円に増額。(以前は出生数に応じて1万円～10万円) 引き続き、子育て支援の充実に努めていく。
	(4) 定住促進課(仮称)の新設	☆☆☆	人口減少対策の取組を推進するため、令和3年4月に総合政策課内に「定住促進室」を設置し、更なる機能強化を図るため、令和4年4月に「移住・定住推進課」を新設。 当課を中心に、定住促進と移住促進の両面から施策を展開する。
	(5) ※再掲 生涯暮らし続けられる体制づくり(介護担い手の確保)	☆☆	令和3年度は、介護学生奨学支援金給付事業により2人に奨学金を給付した。 今後、制度のさらなる周知や申請条件の見直しを行うほか、介護福祉士を目指す学生を増やす対策、復職者の掘り起こしや離職者を減らす対策の検討を行い介護人材の確保に取り組む。
7 基金に頼らない財政運営	(1) 公用車通勤の廃止	☆☆	市長就任時から、公務や安全管理の事情がある場合を除き、自家用車通勤を実施した。 令和4年度以降は、これまでの実施を踏まえ熟慮した結果、市長の重責を果たすためには、通勤時間も公務時間として有効に活用する必要があると判断し、原則として送迎による通勤とする。
	(2) 市長の報酬一部カット(コロナ感染症収束まで一定期間)	☆☆☆	令和3年度は新型コロナウイルス感染症の感染状況に鑑み、市長の給与を1年間減額した。 令和4年度についても、新型コロナウイルス感染症の収束が不透明であることから、さらに1年間、同内容で延長することとした。(市長給料を10/100減額。収束の兆しが見えない場合は、年度末までに再度検討する。)
	(3) 国や県との強力なパイプの再構築	☆☆	総務省から副市長の派遣を受け、施策を推進している。 令和3年度は、コロナ禍で活動が難しい状況であったが、県や国会議員、総務省等への要望活動などを通じて、本市への理解促進とパイプの再構築を図った。 要望した必要なワクチン量や、特別交付税が確保できた。

■令和3年度に取り組んだ主な事業

1 新型コロナウイルス感染症関係事業

- 新型コロナウイルスワクチン接種
1回目、2回目接種において県下トップとなる接種率
- プレミアムにーみんクーポンの配布
全市民に2千円／人クーポンを配布、さらにプレミアム付きクーポンを配布し、コロナ禍の飲食店を応援
- 米づくり応援特別支援金
次期水稲作付に必要な経費を支援(8千円／10a)
- 中小企業者等一時支援金
中小法人に20万円、個人事業者などに10万円を給付し、コロナ禍の事業者を支援

2 新型コロナウイルス感染症関係以外

- ふるさと定住支援金
市内または通勤可能な市外へ就業し、市内に定住する新規学卒者などに支援金を支給(10万円)
- 市内高等学校生徒通学費助成金
公共交通機関を利用している生徒の通学定期券購入費を助成(乗車券の1／2)
- 高校の魅力化推進
市内の高校が実施する、地域資源を活用した取組、地域の課題解決に向けた取組、部活動に関する施設整備などを支援
- 鉄道利用の促進
「新見市鉄道利用促進協議会」を設立し、駅カードの配布やフォトコンテストの開催など実施
- 交通体系の再構築に向けた取組
千屋・坂本と菅生の一部で、予約型乗合タクシーの運行とニーズ調査を、哲西全域で市営バスの増便や予約型乗合タクシーの運行を実施
- 防災マップの作成
土砂災害や浸水想定区域の見直しを受けた防災マップを更新し、ため池及び内水ハザードマップも記載(令和4年度配布)
- こども会議の開催
「新見市子ども条例」に基づくこども会議を開催し5中学校の生徒が学習成果などを発表
- 子育て支援金の増額
令和3年度から、出生祝金を1人当たり10万円に増額。(以前は出生数に応じて1万円～10万円)
- 木材生産向上支援事業
木材施業の効率化、生産性向上のため、中古の高性能林業機械などの購入支援(1／3上限500万円)
- 温泉入浴助成
新見千屋温泉および神郷温泉の利用助成券を配布し、利用を促進
- 豪雨災害からの復旧
平成30年7月豪雨・令和元年9月集中豪雨で被災した河川、林業・農業用施設の復旧を実施
- GIGAスクール構想の推進
既に整備した中学校、小学校5・6年生教室に加え、3・4年生教室に電子黒板を整備
家庭でのオンライン学習を可能とするため、モバイルルーターを整備